

令和5年度第2回多摩市一般介護予防事業評価委員会 <要点録>

日時：令和6年3月22日（金）午後1時30分～3時30分

会場：多摩市役所302会議室

出席者：7名

傍聴者：なし

1 開会

- ・ 高齢支援課長挨拶

2 報告

(1) 令和5年度TAMAフレイル予防プロジェクト（TFPP）実施報告

（資料1に沿って説明）

- ・ 令和5年度もファーストチェックのみ実施した。セカンドチェック該当者は70%。

（意見）男性の参加を増やしていくこと、リピーターには過去と比較してフィードバックする仕組みを考えていけると良い。フィードバックの手法にアプリの利用はどうか。

（事務局）アプリは高齢者だと難しいところもある。音声入力やAIの利用を検討している。

（意見）口腔の渇きはオーラルフレイルのリスクになるのでファーストチェックに加わると良い。

（意見）本事業は皆で盛り立てていくポピュレーションアプローチとして始まっている。学生が参加することによる世代間交流はどのくらい進んでいるか。

（事務局）学生が関わる良さはあるが、カリキュラムが厳しく事業に出るのが難しくなっている。他の大学と連携して参加できるようにしていくのも一つと考えている。

(2) TAMAフレイル予防プロジェクト（TFPP）測定会実施マニュアル第8版について

（資料2に沿って説明）

・ マニュアルは当日参加するスタッフ用で外部には出していない。今後要望があれば外部に広めていくか。

（意見）TFPPはハイリスクを探すものでなく、太鼓判を押して意欲を高める、担い手になれる人には力を発揮してもらおうというコンセプトだが、字面では伝わりにくい。コンセプトが伝わるようにしたうえで広めていくことはメリットがある。

(3) 高齢者のデジタルデバインド対策事業の結果と今後の方向性について

（資料3に沿って説明）

（意見）高齢者がスマホで行政サービスを受け取れるようにするには、見やすく使いやすいデザインにしていくことが大事。

（意見）デジタルデバインドを解消する目的が大事。行政サービスだけでなく健康管理にも使えるメリットがある。健康長寿医療センターでは健康長寿アプリを開発中。使用には申請が必要だが、ぜひ活用してほしい

(4) 認知症があってもなくてもほっとできる通いの場について

（資料4に沿って説明）

（意見）専門職が通いの場に適宜入っていくことで認知症の対応を知る場の醸成になった。ときどき専門職が入り、細く長くやっていくことで運営者の手助けはできる。

（意見）マンネリ化しているグループに「ちょい足し」でやるのがいいかもしれない。

重度化した人への通いの場については別途考えるということではどうか

（事務局）重度化した人の通いの場は需要として挙がっているので、別途検討していく必要がある。

(5) 健康づくり推進事業及び第4次多摩市食育推進計画について

(資料5に沿って説明)

(事務局) 推進員が増えないが、安定した活動をしていくために地区を合同にした。引き続き人材確保に取り組む。

(6) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業の取組状況について

(資料6に沿って説明)

(意見) 一体的実施は各自治体で取り組みは違うが、効果が出るとよい

3 協議

(1) 第9期多摩市高齢者福祉保健計画・介護保険事業計画について

(資料7に沿って説明)

(意見) 特になし

(2) 令和6年度多摩市介護予防事業取り組み計画(案)

(資料8に沿って説明)

(意見) 介護予防は対象者の幅が広いので、目標の違う事業が輻輳(ふくそう)する。基本的にはこれまでの事業を続けていくことが必要。

(意見) 当事者と一緒につけていく事業があるとよい。地域のフレイルを踏まえて、ここで何ができるかを考えるワークショップや、参加した人の意見で変わっていくような作り方ができると面白いのではないかと。

(意見) フレイルは最初の兆候でオーラルフレイルが現れるということがわかってきた。その視点も入れてもらえるとよい。食から入るフレイル予防も必要。

(意見) 長寿を祝う会には男性の参加者も多いという報告から、男性が参加しやすいイベントを増やせるとよい。

(意見) 通いの場の効果について、体力測定は各地域介護教室で年1回やっているが、参加者は多くなく、また利用していない群との比較は難しい。客観的に出せるものがないか、この会でも考えていけるとよい

4 その他 次回の開催

・次回は令和6年7月開催予定

以上